

次世代道院・支部運営研究会(仮称)

2022.6 NMS (Next generation Management Study group)

発足の目的

本会発足の目的は、年々減少していく人口と共に拳士数も激減する中、金剛禅総本山少林寺と少林寺拳法連盟の教義と教えを基に、茨城県の少林寺拳法の普及と次世代拳士の育成、様々な運営方法を研究し、各道院支部の発展に繋げていくことを目的とする。また、社会貢献が理念である我々の活動が淘汰されぬよう、この時代に次世代が持続可能な道院・支部運営ができるようオーナー道院制度から協同道院制度の研究も検討し、経営という視点も取り入れて運営研究し、県連へ提案する。

研究内容

1. 道院・支部の運営方法の研究(地域協同運営方式・外部指導員制度など)
2. 所属長や一般拳士を対象に、運営実態調査アンケートを実施し、運営課題に取り組む
3. 道院・支部収入を増やし、さらにより良い指導環境を研究する
4. 拳士の多様性を受け入れ、拳士数の増加を図る
 - ・・・1 施設 18～20 名以上を目標とする。(1 指導者×拳士 6 名程度制)
5. 運営や指導方法の共有と研究(定期的な勉強会の実施。外部講師等)

対象

道院・支部すべての拳士が対象

茨城県の道院・支部の強み

- 道院長や支部長が多いー 高段者の指導者が各地区におり、施設運営の経験も豊富。
- 所属長以外の指導者がいるー 人数差はあるがそれなりに育っている所がある
- 武専の生徒がいるー 次世代を担う若手指導者
- 多くの審判資格取得者がいるー 所属運営には欠かせない審判講習会の参加者は多い

具体的な研究案

- ①道院・スポ少の運営方法の改革(地域協同運営方式・外部指導員制度)

ここでいう地域協同運営方式とは、地域にある道院や支部が協同して道院・支部運営にあたり、指導者を増やすことで、指導者がゆとりをもって一人一人に対応できる指導体制づくりを構築することをねらいとする。また、外部指導者として近隣道院・支部より指導応援をしてもらえるよう日当交通費を支払えるよう予算に盛り込む。

例:



A 道院(月・木稽古)



B 支部(水・土稽古)

- ②道院・支部収入を増やし、さらにより良い指導環境を築く。

20人以上の拳士数を確保できるよう、県連単位で道院支部運営の勉強会を実施し、会員獲得のノウハウを共有する。自分の技術を活かしながら青少年の育成並びに社会貢献活動を積極的に行う。

例:

教育委員会(学校)や市町村のスポーツ協会に加盟し、入会窓口となる広報活動とホームページ等にリンク出来るようにする。

次世代道院・支部運営研究会(仮称)

2022.6 NMS (Next generation Management Study group)

- ③拳士の多様性を受け入れ、拳士数の増加を図る

指導者の確保ができれば、一人一人の対応ができるため指導の質が高まり、拳士やその保護者との関係性も良くなり、少林寺拳法の魅力が深まる。

- ④運営や指導方法の共有と研究(定期的な勉強会の実施。外部講師等)

道院・支部の定期的な勉強会を実施。

例： 稽古内容の共有、価格設定、ホームページの作り方、集客方法、SNS 利用方法等

全国道院・支部の成功事例の活用、外部講師研修会

本会発起人

取手南道院 近藤先生

ひたちなか市松戸スポ少 菊本先生

水海道スポ少 緒方先生

つくば花畑道院 古谷野